

B-4. ダムの役割が知りたい 北陵幼稚園（島根県簸川郡）〈5歳児 4月～6月〉

子どもは遊びの天才であると言うが、実はその背景に子どもをしっかりと理解する教師集団がいることで「遊びの天才」がより確かなものになっていくと考える。幼稚園という子どもたちが出会う環境が子どもの「育ち」の支援の場であってこそ、幼児教育の基礎基本が培われていくものではないだろうか。私たちは、子ども一人ひとりを理解し、その子どもの持つ力を最大限に生かす努力をしたいと考えた。そのことは「科学する心」育てに繋がると思っている。子どもが抱く「なぜ?」「どうして?」と日々向き合う疑問や不思議があるからこそ生活の楽しみがあるように思う。そのことが、大きな生活力として身につくものだと確信する。

〈4月の活動の背景と様子〉

- ◆ 進級した喜びは大きいですが、遊びを見ると、子どもたちが本当にやりたい遊びではないように見受けられる。
- ◆ 思いっきり全身で泥・砂・水を使った遊びが少なかったため、園庭の築山の隣に思い切り沢山の山土を入れる。
- ◆ 全身を使って砂や泥で遊ぶために、用具は出来るだけ大きな物を使わせる。
- ◆ 絵本の読み聞かせは、「川」「海」「山」といった内容の本を選び読み聞かせする。



砂と水の加減を考えて
セメントつくり



ダムが出来た！
ヤッホー！



遊具の下までダムの水を
流し続けている




水を流したり、
セメントで修復している

〈5月の活動の背景〉

- ◆ 5月に入り、「ダム」という言葉と共に、水を溜める、せき止めた板を外して、出来るだけ遠くまで流すことを繰り返し行う。

月 日	幼児の活動並びに教師の援助	幼児の課題意識の捉え
5/21	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1ダムが出来、第2ダムが出来、川を流して海まで流れていくために、工夫をしている。第1ダムに水を溜める必要が出てくる。S児が「ピピピ水くみ隊きてください！」携帯電話をかける模倣をする。水汲み隊のS児、H児は張り切って水を汲みに行く。K児「後ろが大変です。あんまり砂がありません」と水が漏れそうになると砂を運ぶS児。「黄色い砂を運ぶ!」という。浜砂である。ハロータワーの下は大きな海である。 ● この遊びは教師が入る隙がないほど熱中している。崩れると直したり、友だちの手を借りたりして遊びが楽しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちの中には、「ダム」という言葉でお互いがつながっている。第1ダム、第2ダムという名前が、学級の合言葉にまでなってきた。それだけ子どもたちの中に「ダム」という存在が定着してきていることである。いよいよ、ここから教師の出番である。 ● ここまで遊びこもつと次は子どもたちに「ダム」という言葉だけでなく「ダム」の内容についてさらに深めて欲しいと考える。子どもたちの心をゆさぶる方法を考えたい。
6/7	<ul style="list-style-type: none"> ● ダムに関する本を6冊ほど、部屋に置く。登園すると同時に、子どもたちはいつもの場所に走っていく。しかし、見ていると今までのような勢いが無い。 ● 部屋に帰ってきたときを見て、本を見せる。「ダム」の意味に耳を傾ける。「なんでダムがあるの」「ダムってどこにあるの」「行きたいね」 	<ul style="list-style-type: none"> ● 精一杯子どもたちは、遊びを自分たちで展開していった。そろそろ砂でのダムづくりは終わりを感ずる。この時を見逃さないことが大切である。何故なら、子どもの心にゆさぶられるものがなくなれば、次のめあてを持つために子どもの興味関心の行方を探り、心がゆさぶられるものを見つけたら提案することも必要であると考えた。
6/10	<ul style="list-style-type: none"> ● ダムに水力発電があり電気を作っていることを知り、幼稚園の電気はどこからきているのかを周りにある電線を見ながら探しに行く。 ● 周囲を一回りして、「でもこの電気はどこからくるの」という疑問が生まれてきた。Y児「中国電力からだと思う」S児「川のダムだと思う」という子どもの答えを納得して聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ダム」の本を部屋においたことで、子どもの興味関心はすぐに動き出した。このことは、砂と水と泥の遊びで、思い切り遊び満足いくまで遊べた結果であると思う。次のめあてを持ちたいという思いと、教師の構想との連携が合致したことになると思う。 ● 電気がどこで出来るかという問いを見いだした子どものすごさに感心した。このことから言えることは、「なぜ?」

月 日	幼児の活動並びに教師の援助	幼児の課題意識の捉え
6/15	<ul style="list-style-type: none"> 「だったらお家の電気はどこで作られるの」次々と疑問や自分で調べたことを話そうとする。 子どもの思いと教師の保育の構想とが一つになったことで、子どもが「本物のダム」に行きたいという願いをかええる事にした。 「水がたくさんあるかな」M子 「何でできているかな？ コンクリート？」「セメントってことだ」児・K児・S児 「三瓶山の山を掘ったら溶岩が出て熱いよ」「噴火したら山がもう一つ出来るよ」S児・O児 	<p>「どうして？」から出発した子どもの興味関心を子ども自身が実現していく力として蓄えたことになると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ダム行きを子どもたちは楽しみに待った。大田市にある三瓶ダムに行くことにした。 子どもたちの会話を聴いていると、どこでこのような情報を知りたいのかと思うほどである。このことが子どもの「なぜ？」「どうして？」から出発する最大の力であると思った。 持っていくもの・乗っていく車・それぞれの場での挨拶など、子どもたちで確認をしている。
6/18	<ul style="list-style-type: none"> 啞然としてダムを見ている。自分たちが作ったダムとは大きな違いである。ダムの高さ、深さ、巨大さに圧倒されている。 噴水を発見・太いパイプで繋がっている。 水量計を発見など目に入るものに興味を示す。 子どもたちは一番疑問に思っていることの答えが実際に見えないことに不満を持つ。そこで、ダムの管理人さんに子どもの疑問に答えてもらうために、管理棟を訪ねる。 <p><質問></p> <ul style="list-style-type: none"> 電線がないのはなぜですか？ K児 発電機はないのですか？ K児 噴水はなぜあるのですか？ Y児 <p>(中 略)</p> <p>ダムは何のためにあるのですか？ 全員</p> <ol style="list-style-type: none"> 大雨が降って洪水が起きないようにするため。 山の下にある大田市に水道水として送るため。 発電をします。中国電力から家庭に送ります。 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに全てを任せ、子どもたちが自分で聞きたいことを自分の言葉で聞き自分で知りえた喜びを感じて欲しいと思った。 実際適切なことを次々と質問をするので管理人さんもびっくりされる。 帰りのバスの中では、知りえた情報を更に友だちと共有するために、1時間のバスの旅が大変楽しいものになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ダム」という存在のあまりの大きさに啞然としていたが、子どもたちは自分たちの力でここまで来たという、満足感・充実感が感じられた。  <p>ダムの大きさに啞然とする子どもたち</p> <ul style="list-style-type: none"> あります。ダムの下的小屋に水車があります。 ダムの設備を動かす電気は作っています。 水中のプランクトンの発生を抑えます。

<活動のその後とダム製作の様子>

子どもたちに勢いがある。生活力がある。と確信できる。S児・T子・M子・K児がうずうずしている様子が伺える。

「どうしたの？」と聞く。「三瓶ダムのこと忘れそう……」「今から作っておきたい」という。「先生もみんなの意見に賛成！」と伝える。うれしそうである。「電気でしょう」「タービンでしょう」と話ながら教材庫に向かう。



様々な材料を集めて、自分の作りたい所から始めていく



自分で作っては直し、直しては作るという活動を根気よく続けていく



一人ひとりの活動が、友だちと一緒に力をあわせて行う活動になってきた。

ポイント

4月、子どもの遊びが本当にやりたい遊びではないのではという保育者の捉えから、園庭でのダム作りが始まります。それから1ヶ月。ダム作りで遊びこむ子どもたちの姿に陰りが見えたときに、次の目当てを保育者が提案しています。

子どもの遊びの流れを理解しながら、子どもと共に活動を発展させていっています。「教師の出番」の見極め・効果などについても示唆が与えられる事例です。